

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600055		
法人名	有限会社 北條ホスピタル		
事業所名	グループホーム北斗		
所在地	徳島県三好市池田町マチ2526番地10		
自己評価作成日	平成27年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JRの駅から徒歩5分の距離にあって交通の便が良く、買い物にも便利な場所にあります。近所には、小さな公園もあり、天気の良い日は毎日のように散歩を楽しんでいます。又、協力医療機関である病院に隣接しているため、日頃の健康管理や救急時の対応も行ってもらえ安心して生活することが出来ます。当ホームは、平成26年8月に開設したばかりで、木の温もりと開放感を感じる空間づくりをしていて、入居者様それぞれがゆったりとした時間を過ごせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR鉄道の駅の近隣に位置していることなど、利便性の良い環境にあり、周囲には、公園や神社、協力医療機関等がある。事業所では、利用者一人ひとりの担当職員制をとっており、利用者や家族、関係者と密に話し合うことのできる機会を設けている。また、3か月に1回、家族へ日頃の利用者の様子を“お便り”で伝えており、写真や担当職員からのメッセージを添えて送っている。家族や友人の来訪も多く、利用者とともにゲームやレクリエーションを楽しんだり、おやつ作りなどを行ったりして、利用者が明るい雰囲気の中で、ゆったりと過ごすことができるよう支援している。協力医療機関と連携し、健康管理や救急時は24時間の対応が可能な体制を築いており、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊厳を守り、家庭的で安心して暮らせるよう、1人ひとりの生活状況をミーティング等で確認し、個人の状況にあったサービスを行っています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。全職員で理念について話し合い、共有化を図っている。また、職員は、理念を支援の原点として捉え、日頃の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自宅にいる時と同じ感覚で居られるよう地域の行事にもできるだけ関わられるよう努めています。近くに公園がある立地環境も利用して地域や地域の人と交流が持てるよう積極的に散歩も行っています。	天候の良い日には、利用者と職員で近隣の神社や公園へ散歩に出かけており、その際、近隣住民と挨拶や会話を交わしている。また、事業所に阿波おどりの連を招待したり、保育所の子ども達を受け入れたりして、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議における地域からの参加者や地域のボランティア活動等に参加して、認知症に対する理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居された方の日常生活や行事、懸案事項等について報告し、出席者の意見・要望を聞き、施設の運営状況の改善、サービスの向上に役立てています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、家族や地域住民の代表、警察署員、市担当者等の出席を得ている。事業所から利用者の状況や行事について報告している。また、事業所の運営等について、出席者と活発に意見交換を行っている。出された意見は職員間で共有し、サービスの質の向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や広域連合主催の研修会や会議に参加し、運営推進会議には出来るだけ参加していただけるよう努めています。業務上の不明なことはその都度相談しています。	日頃から、管理者は市担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや困りごとなどについて話し合うようにしている。また、利用者の状況等から困難な事案が生じた場合や不明なことがあったときには、電話で連絡を取るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のすぐ前が公道ということもあり、玄関の鍵は安全のためかけていて、外出したい時は職員も一緒に出かけています。ミーティング等で身体拘束に対する考え方や取組について話し合いを行っています。	身体拘束の防止に関するマニュアルなどを作成している。毎月、全職員で、「身体拘束の禁止の具体的な行為」について話し合っている。職員は、見守りを徹底し、利用者の行動を理解するよう努めている。しかし、事業所が公道に面しており、十分に安全を確保することが困難との判断から玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止対応マニュアルを作成し、職員に注意喚起しています。また、職員のストレスにも注意を払い、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等において必要に応じて話をしています。職員やご家族の対応が必要な時は、随時アドバイスをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、事業所の特色や重要事項及び費用の内訳を入居者様やご家族に対し説明し、納得して利用をしていただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時、その都度意見や要望を伺い、思いを汲み取るよう心がけています。出された意見や要望は、職員に周知しています。	管理者と担当職員は、家族の来訪時には、積極的に話しかけ、意向や希望等を聞くようにしている。年4回、家族などへ、日々の利用者の生活の写真や、担当職員の気づきなどのコメントを添えた“お便り”を配付するなどして、家族が意向を出しやすいよう事業所の取り組みを伝えるようにしている。出された意見や提案は、職員間で話し合って運営面に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催して、職員の意見を聞くようにしています。日々個人の意見・要望があれば話し合うように心がけています。	“気づきカード”を活用し、職員の気づきやアイデアを聞くようにしている。月1回、代表者は、管理者から職員会議の報告を受けるなどして、一人ひとりの意見に耳を傾けるよう努めている。また、職員の提案を運営にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう、職場環境の向上に努めています。休みの希望は勤務表作成前に提出してもらい、希望に添って休めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のため、研修に対する休暇や費用補助を行っています。また、技能向上の研修にも積極的に参加させ、報告書を提出してもらって共有化を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者と交流する機会は少ないが研修等を通じて情報交換を行い、サービスの質の確保・向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安を取り除くよう何事にも傾聴・共感し寄り添うように努力しています。ご本人の想いを理解し安心して頂く事によって、良好な関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を充分に聞く機会を設け、ご家族の思いを受け止め、サービス提供に反映させることで、信頼関係を構築できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を伺いながら、必要な支援を見極め、医療機関とも連携して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に日常生活を送ることで、暮らしを共にする意識を持ち、一緒にできることはして頂くようにして信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に入居者様を支えていくことについて、相談しながら介護するようにしています。また、日頃より連絡を密にして、ご家族と共に支えるという思いを共有出来るよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友達の訪問はたえず受け入れ、電話の取次ぎ、ご家族との外食や買い物の支援などを行っています。また、ご本人が大切にしている事については、ご家族の協力を得ながら継続できるように努めています。	事業所では、家族の協力を得るなどして、利用者の一時帰宅や理・美容院、買い物、外食、墓参りなど、一人ひとりの馴染みの人や場所、関係の継続に配慮した支援を行っている。利用者の友人や知人の来訪も多く、過ごしやすい雰囲気づくりに留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極め、一緒に食事や雑談が出来るよう職員が調整役をすると共に、日々心身の状況や感情の変化に気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご本人の様子やご家族の相談を受けられるようにその後の状況を確認しています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけにより、言葉や表情からその意思を推し量ったり、カンファレンス等で、気が付いた点について話し合い、その人の希望の把握をしています。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。意思の表出の把握が困難な方には、声かけを多くし、言葉や表情から意向を把握するよう努めている。家族から、今までの生活歴や趣味等の情報を得るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から自宅での暮らしぶりや、様子を伺い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録や申し送り等により、心身の状態や有する能力等の変化に注意しています。日々の生活の中から出来る事や得意な事があれば、一緒にやってもらっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の担当を決め介護職員と共に、日々の記録やご本人、ご家族からの要望等を踏まえ原案を作成しています。また、随時、改善点を職員全員で話し合い、個人に即したケアプランの見直しをしています。	介護計画は、家族などの意向を把握したうえで、計画作成担当者が中心となって担当職員等とともに作成している。また、心身の状況に応じて、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人記録や連絡帳等に記載し、申し送り時に情報を共有し、ケアに活かしています。また、個人記録をケアプランの見直しに利用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個人のニーズに答えられるように、ご本人やご家族の状態を考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加できる地域の活動や資源については、ご本人の希望を聞きながら参加したりしていますが、もっと活用できるような機会を作っていきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の同意を得て、かかりつけ医で受診できるよう支援しています。また、受診結果をご家族に連絡するように努めています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。家族の協力を得たうえで、眼科や歯科等の専門科の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、常に入居者様の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしています。また、受診記録・介護日誌により、入居者様の健康状態等を介護職の誰でも確認できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は主にケアマネ、看護師が窓口となり実施しています。入退院後のサービスにも混乱が起きないように、病院スタッフと連絡調整を実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化した場合における対応の指針を作成し、事業所が対応できるケアについての説明をおこなっています。ご本人の気持ちを大切に、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を迎えられるよう環境整備をしています。	契約時の段階で、終末期に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。本人や家族の意向を大切に、地域の関係者等の協力を得て、終末期ケアをチームで行うよう体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事故防止・対応マニュアルを作成して、万一の時に備えています。救急救命講習やAED講習を受講し、緊急時の訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策マニュアルを作成し、緊急時の対応を定めています。定期的な防災訓練は年2回行い、入居者様と一緒に参加し一人ひとりの力に応じた避難方法や、避難経路を確認しています。	事業所では、災害時の対応に関するマニュアルを作成している。年2回、消防署や隣接の医療機関の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。避難経路の確認を行い、利用者とともに実践的な訓練を実施している。また、災害時に備え、食料品や備品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し、力に応じた声掛けを行い、プライバシーや誇りを損なわないよう対応に注意しています。	職員は、申し送りやカンファレンス等の機会に、利用者のプライバシーについて話し合っている。日々の利用者との関わりの中かで、一人ひとりへの言葉かけの方法等に留意し、自尊心を傷つけることがないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の経歴を考慮し表情を見ながら思いを感じ取ったり、わかりやすい表現での説明や簡単な選択ができるような声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送って頂くため、1日の流れはあるが、その中で一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、職員の都合を優先する事が無い支援を行なうように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は、馴染みの店がある方はご家族に協力を得ながら利用されています。朝の着替え、おしゃれは、ご本人の意向に任せてありますが、出来ない方は行事、天候、外出に合わせた衣装を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に合わせて、職員と一緒にテーブル拭き・片づけなどお願いし、食事と同じテーブルで食べています。また、おやつ作りなどを楽しむ機会も作っています。	同一法人の運営する隣接の医療機関で調理したものを事業所に持ち込んで盛り付けている。利用者の身体状況にあわせた食事形態等で提供している。利用者と職員とともに食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。週1回、利用者と職員で、手づくりのおやつを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じて、食事形態を変更して対応しています。食事量や水分量など一日の摂取量を記録して把握しています。栄養バランスについては、栄養士がしてくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと、その人の能力に合わせて必要な支援を行っています。歯科往診時には、指導・助言を受け、相談にものって頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めています。言葉にできない方の仕草等を見逃さないように注意しています。また、個人のプライバシーを害さないよう配慮しています。	職員は、利用者の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレへの誘導を行っている。夜間の移動が困難な方には、睡眠を妨げることをしないよう、紙パンツやパットなどを用いて対応することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行っています。便秘傾向の方に対しては、医師に相談し便秘薬を処方してもらい調整しています。体操など適度な運動や、食事以外の時間にも水分摂取を促すなど心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、2日に1回を目途に午前・午後に分けてご本人の希望も聞きながら入浴いただいています。拒否される入居者様には、無理強いせず声かけや足浴など工夫しています。	事業所では、なるべく週3回は入浴してもらうことができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身や精神状態に応じ、清拭を行ったり、希望する時間に合わせたりして、利用者に寄り添った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室で休みたい時は休んで頂き、ご自分のペースにあった生活をしていただいています。生活のリズムを壊さないよう昼はなるべくレクリエーション等に参加するよう声かけをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテには、現在服用中の薬剤情報が綴られていて、処方・効能等確認できるようにしています。変更時には、内容や気をつける事等の説明を看護師より行い情報の共有化をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の経験や知識の把握に努め、その人にあった仕事をして頂き、活気のある生活を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見や遠足等職員と一緒に外出を行っています。また、近所の公園への散歩や花の水遣り等希望に応じ日常的に見守りにて行っていただいています。	季節の花見や遠足等の外出のほか、近隣の神社のお参りや公園への散歩等の外出を支援している。また、事業所として、利用者全員で外食に出かけたり、利用者の希望に応じて、喫茶店へお茶を飲みに出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月少額ではありますがおやつ代として、事務所で預かっています。外出時に、入居者様がほしい物があれば、そのお金をお渡ししてご本人と一緒に職員が付添い買って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、管理者や職員が仲介し掛けて頂き、個室にて会話ができます。年賀状は、職員側から勧めてご本人に書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	徳島杉で造った建物の利点を生かし、落ち着いた雰囲気づくりに心がけています。また、四季折々の掲示物や生け花などにより、季節感も味わえるよう気を付けています。	共用空間には暖かい日差しが差し込んでおり、明るく過ごしやすい空間となっている。居間には、季節の花を生けている。また、共用空間には、利用者と職員で作成したちぎり絵などの作品を飾っており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを設置し、畳のスペースも設け、入居者様同士や職員も交えいつでもくつろいだり、談笑したり、休息できるような環境を整えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が相談し、馴染みのある家具やテレビ等を置いたりされています。写真を飾ったり、好きな物を置かれています。	入居時に、本人や家族と話し合い、本人の使い慣れた家具やテレビなどを持ち込んでもらっている。家族の写真などを飾る利用者もあり、これまでの生活を続けられる、居心地の良い空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人やご家族に了解を得て居室の入り口に表札を掲げたり、トイレの入り口が分かるように表示し、自立した生活が送れるように支援しています。個人の行動パターンを把握して、危険がないように心がけています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊厳を守り、家庭的で安心して暮らせるよう、1人ひとりの生活状況をミーティング等で確認し、個人の状況にあったサービスを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自宅にいる時と同じ感覚で居られるよう地域の行事にもできるだけ関わられるよう努めています。近くに公園がある立地環境も利用して地域や地域の人と交流が持てるよう積極的に散歩も行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議における地域からの参加者や地域のボランティア活動等に参加して、認知症に対する理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居された方の日常生活や行事、懸案事項等について報告し、出席者の意見・要望を聞き、施設の運営状況の改善、サービスの向上に役立てています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や広域連合主催の研修会や会議に参加し、運営推進会議には出来るだけ参加していただけるよう努めています。業務上の不明なことはその都度相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のすぐ前が公道ということもあり、玄関の鍵は安全のためかけていて、外出した時は職員も一緒に出かけています。ミーティング等で身体拘束に対する考え方や取組について話し合いを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止対応マニュアルを作成し、職員に注意喚起しています。また、職員のストレスにも注意を払い、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等において必要に応じて話をしています。職員やご家族の対応が必要な時は、随時アドバイスをしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、事業所の特色や重要事項及び費用の内訳を入居者様やご家族に対し説明し、納得して利用をしていただけるようにしています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時、その都度意見や要望を伺い、思いを汲み取るよう心がけています。出された意見や要望は、職員に周知しています。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催して、職員の意見を聞くようにしています。日々個人の意見・要望があれば話し合うように心がけています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう、職場環境の向上に努めています。休みの希望は勤務表作成前に提出してもらい、希望に添って休めるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のため、研修に対する休暇や費用補助を行っています。また、技能向上の研修にも積極的に参加させ、報告書を提出してもらって共有化を図っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者と交流する機会は少ないが研修等を通じて情報交換を行い、サービスの質の確保・向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安を取り除くよう何事にも傾聴・共感し寄り添うように努力しています。ご本人の想いを理解し安心して頂く事によって、良好な関係づくりを心掛けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を十分に聞く機会を設け、ご家族の思いを受け止め、サービス提供に反映させることで、信頼関係を構築できるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を伺いながら、必要な支援を見極め、医療機関とも連携して対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に日常生活を送ることで、暮らしを共にする意識を持ち、一緒にできることはして頂くようにして信頼関係の構築に努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に入居者様を支えていくことについて、相談しながら介護するようにしています。また、日頃より連絡を密にして、ご家族と共に支えるという思いを共有出来るよう努めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友達の訪問はたえず受け入れ、電話の取次ぎ、ご家族との外食や買い物の支援などを行っています。また、ご本人が大切にしている事については、ご家族の協力を得ながら継続できるように努めています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極め、一緒に食事や雑談が出来るよう職員が調整役をすると共に、日々心身の状況や感情の変化に気を付けています。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご本人の様子やご家族の相談を受けられるようにその後の状況を確認しています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけにより、言葉や表情からその意思を推し量ったり、カンファレンス等で、気が付いた点について話し合い、その人の希望の把握をしています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から自宅での暮らしぶりや、様子を伺い、これまでの生活歴、好きだった事、昔していた事などお聞きし把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録や申し送り等により、心身の状態や有する能力等の変化に注意しています。日々の生活の中から出来る事や得意な事があれば、一緒にやってもらっています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の担当を決め介護職員と共に、日々の記録やご本人、ご家族からの要望等を踏まえ原案を作成しています。また、随時、改善点等を職員全員で話し合い、個人に即したケアプランの見直しをしています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人記録や連絡帳等に記載し、申し送り時に情報を共有し、ケアに活かしています。また、個人記録をケアプランの見直しに利用しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個人のニーズに答えられるように、ご本人やご家族の状態を考えながら支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		参加できる地域の活動や資源については、ご本人の希望を聞きながら参加したりしていますが、もっと活用できるような機会を作っていきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		ご本人やご家族の同意を得て、かかりつけ医で受診できるよう支援しています。また、受診結果をご家族に連絡するように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		看護職員を配置して、常に入居者様の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしています。また、受診記録・介護日誌により、入居者様の健康状態等を介護職の誰でも確認できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		医療機関との連携は主にケアマネ、看護師が窓口となり実施しています。入退院後のサービスにも混乱が起きないように、病院スタッフと連絡調整を実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入居者様が重度化した場合における対応の指針を作成し、事業所が対応できるケアについての説明をおこなっています。ご本人の気持ちを大切に、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を迎えられるよう環境整備をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		介護事故防止・対応マニュアルを作成して、万一の時に備えています。救急救命講習やAED講習を受講し、緊急時の訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		非常災害対策マニュアルを作成し、緊急時の対応を定めています。定期的な防災訓練は年2回行い、入居者様と一緒に参加し一人ひとりの力に応じた避難方法や、避難経路を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し、力に応じた声掛けを行い、プライバシーや誇りを損なわないよう対応に注意しています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の経歴を考慮し表情を見ながら思いを感じ取ったり、わかりやすい表現での説明や簡単な選択が出来るような声掛けを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送って頂くため、1日の流れはあるが、その中で一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、職員の都合を優先する事が無い支援を行なうように心掛けています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は、馴染みの店がある方はご家族に協力を得ながら利用されています。朝の着替え、おしゃれは、ご本人の意向に任せてありますが、出来ない方は行事、天候、外出に合わせた衣装を心掛けています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に合わせて、職員と一緒にテーブル拭き・片づけなどお願いし、食事も同じテーブルで食べています。また、おやつ作りなどを楽しむ機会も作っています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じて、食事形態を変更して対応しています。食事量や水分量など一日の摂取量を記録して把握しています。栄養バランスについては、栄養士がしてくれています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと、その人の能力に合わせて必要な支援を行っています。歯科往診時には、指導・助言を受け、相談にものって頂いています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めています。言葉にできない方の仕草等を見逃さないように注意しています。また、個人のプライバシーを害さないよう配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行っています。便秘傾向の方に対しては、医師に相談し便秘薬を処方してもらい調整しています。体操など適度な運動や、食事以外の時間にも水分摂取を促すなど心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、2日に1回を目途に午前・午後に分けてご本人の希望も聞きながら入っています。拒否される入居者様には、無理強いせず声かけや足浴など工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室で休みたい時は休んで頂き、ご自分のペースにあった生活をして頂いています。生活のリズムを壊さないよう昼はなるべくレクリエーション等に参加するよう声かけをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテには、現在服用中の薬剤情報が綴られていて、処方・効能等確認できるようにしています。変更時には、内容や気をつける事等の説明を看護師より行い情報の共有化をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の経験や知識の把握に努め、その人にあった仕事をして頂き、活気のある生活を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見や遠足等職員と一緒に外出を行っています。また、近所の公園への散歩や花の水遣り等希望に応じ日常的に見守りにて行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		毎月少額ではありますがおやつ代として、事務所で預かっています。外出時に、入居者様がほしい物があれば、そのお金をお渡ししてご本人と一緒に職員が付添い買って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		電話は希望があれば、管理者や職員が仲介し掛けて頂き、個室にて会話ができます。年賀状は、職員側から勧めてご本人に書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		徳島杉で造った建物の利点を生かし、落ち着いた雰囲気づくりに心がけています。また、四季折々の掲示物や生け花などにより、季節感も味わえるよう気を付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ホールには、ソファを設置し、畳のスペースも設け、入居者様同士や職員も交えいつでもくつろいだり、談笑したり、休息できるような環境を整えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		ご本人やご家族が相談し、馴染みのある家具やテレビ等を置いたりされています。写真を飾ったり、好きな物を置かれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		ご本人やご家族に了解を得て居室の入り口に表札を掲げたり、トイレの入り口が分かるように表示し、自立した生活が送れるように支援しています。個人の行動パターンを把握して、危険がないように心がけています。		